

# I I A S NEWSLETTER

International Institute for Advanced Studies

# 42

SPRING 2005

 財団法人  
国際高等研究所

<http://www.iias.or.jp>

index

## 報 告

企画委員会を開催  
2005.2.25~26

2005年度事業計画についての意見交換

理事会・評議員会を開催  
2005.3.28

2005年度事業計画・収支予算等の承認及び  
金森順次郎所長再任

日本学術振興会研究開発専門委員会・高等研特別研究  
「物質科学とシステムデザイン」3年間の  
研究終了、報告書提出

代表者 金森順次郎 所長

日本学術振興会研究開発専門委員会・高等研特別研究  
「電子系の新しい機能」をテーマに、  
2005年4月から3年間にわたる研究をスタート

代表者 新庄輝也 上級研究員

フェローによる活発な研究活動状況

- ①藤村・中島両フェローによる「進化と文法」
- ②フェローフォーラム(本河、新庄、遠藤、伊藤各フェロー)
- ③沢田フェロー研究会

第6回コンピューテーショナル・マテリアル・デザインワークショップの開催  
2005年3月8日~15日

原研・阪大との共催事業

## 募 集

高等研「雅松庵」茶会と文化講演会  
2005年5月7日開催予定

茶 会;本間宗寿 茶道裏千家 正教授  
講演会;モンゴル時代の世界  
講師 杉山正明 京都大学文学部 教授

研究員の動き ■新庄輝也フェローが2月1日から上級研究員に就任

叙 勲 ■中川久定副所長がフランスからレジオン・ドヌール勲章受賞

新刊書案内 ■高等研報告書・出版関連 (2005年3月31日発行)

研究活動・ ■研究活動 2005年1月~6月

公開事業等の ■公開講演会 2005年1月~6月

開催状況 ■高等研フェロー等の研究活動 2005年1月~6月

## 2005年度事業計画について活発な意見交換

企画委員会は、研究事業の推進を図るための所長の諮問機関で、16名の企画委員、10名の特別委員、14名のフェロー、総勢40名のメンバー構成である。当日はその内23名の参加で開催した。委員会では、2004年度の事業実施状況、2005年の事業計画案について活発な意見交換が行われた。併せて、藤村靖フェローか

ら「抽象性についての二三の考察:言語学から学ぶこと」、吉田忠フェローから「江戸時代の科学機器」についての話題提供があり、北川善太郎副所長から「高等研学術出版」についての説明があった。

なお2005年度も年3回程度の委員会開催を予定している。

## 2005年度事業計画・収支予算及び金森現所長の再任の承認

3月28日(月)に第55回理事会・第49回評議員会を開催。2005年度事業計画・収支予算、理事・評議員の選任及び現所長の金森順次郎氏の所長再任が承認された。

## (1) 2005年度事業計画

研究プロジェクト20課題、招へいフェロー10名、若手研究者の育成事業2名、公開講演会2件実施を計画している。

## (2) 収支予算

収入合計171,632千円(対前年予算費△31,324千円)、支出合計252,060千円(同△23,602千円)の収支予算である。

## (3) 理事・評議員の選任

諸団体の代表交代に伴う理事3名及び評議員2名が選任された。

## (4) 所長人事

現所長の金森順次郎氏が再任された。

任期は2005年4月1日から2007年3月31日まで。



## 日本学術振興会研究開発専門委員会・高等研特別研究「物質科学とシステムデザイン」3年間の研究終了、報告書完成

2001年度から3年間にわたり、日本学術振興会の研究開発専門委員会「物質科学とシステムデザイン～次世代エレクトロニクスの構築にむけて～」の調査研究が行われ、拡大補完するため高等研特別研究を実施し、このほどその報告書を作成した。本研究調査は、次世代のエレクトロニクスの構築に向けて学術研究及び生産技術の新たな方向性を研究することを目的に実施され、金森順次郎高等研所長を委員長に、大学等の研究機関と企業の研究者

により構成され、登録研究者は最大で80名を超えることもあった。物質科学と生産技術分野の相互の対話を促進し、量子スピエレクトロニクス、有機分子エレクトロニクスとシステムデザインの各分野の最新のトピックスについて意見を交換した。また、本プロジェクトは発足に当たって、自由な討論と研究を確保するために、まず、新しい概念に基づく共同研究のルールを定め(産学連携高等研モデル)、異分野異領域をつなぐ多くのブリッジを構築することができた。

## 日本学術振興会研究開発専門委員会・高等研特別研究「電子系の新しい機能」が2005年4月から3年間にわたる研究をスタート

新たに2005年度から3年間にわたり「電子系の新しい機能」をテーマに日本学術振興会研究開発専門委員会が発足したことに伴い、その研究活動をより拡大・充実させるため、同じテーマの高等研特別研究がスタートした。これは前年度終了した「物質科学とシステムデザイン」の研究を受けて、新たに設置されたものである。

研究代表者には、高等研の上級研究員である新庄輝也京都大学名誉教授が就任。未開拓の世界を秘める固体・分子の電子集団の機能を解明して省資源、省エネルギー、超高集積、超高速などの次世代エレクトロニクスに必要な高機能性をもつ材料の創成に貢献する。

## 高等研フェローの活発な研究活動の状況..... 2004.9.18

## ① 藤村・中島フェローによる「進化と文法」

2004年度のフェローとして招へいた藤村 靖オハイオ州立大学名誉教授と中島 泉名古屋大学理事・副学長の両フェローによる「進化と文法」と題するミニ研究会を数回実施した。

2005年度は新たに開始する「高度科学技術に伴う広域・学際的諸課題」の一つとして取り上げられることとなった。現在は、生物進化と言語発達の両面の事例的研究と概念抽出の段階である。

## ②フェローフォーラム(本河、新庄、遠藤、伊藤各フェロー)

本河(東北大)、新庄(京大)、伊藤(お茶の水女子大)、遠藤(東北大)の各名誉教授である4人のフェローの企画により第2回フォーラム「科学と技術のはざ間」が実施された。テーマは「科学と技術のはざま」に関連した研究と大学院教育で主として物性物理、物質科学、材料科学の分野を対象に大学院や各種研究所における研究を通してわが国の科学者、技術者の育成がいかにあるべき

か、これらの問題点や課題の整理し議論が行われた。

## ③沢田フェロー研究会

研究会「動物にmindが発生するための数理的条件」をテーマに、沢田フェロー(東北工業大教授)の企画により、情報幾何学、認知科学、物理学、カオスにおけるmindの条件と実証可能性について、甘利俊一(理研)、乾敏郎(京大)、岡田真人(東大)、津田一郎(北海道大)、益田直紀(理研)が参加し、討論された。

## 報告⑥

### 第6回コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザインワークショップ開催…………… 2005.3.8~12

専門的人材育成事業の一つとして位置づけている本ワークショップは、CMD(コンピューテーショナル・マテリアルズ・デザイン)の基礎となる最先端の電子状態計算手法を提供し、実際にマテリアルズ・デザインを体験することで、物質科学の新しいパラダイ

ムに対応できる基礎能力の養成が目的。なお対象は大学院生、ポストドクターの若手研究者で、参加者は23名。本ワークショップは高等研施設を利用し、高等研と大阪大学、日本原子力研究所光量子科学研究センターとの共催事業である。

## 募集

### 高等研「雅松庵」茶会と文化講演会;2005年5月7日開催予定 (高等研ホームページを参照)

2005年5月7日(土)恒例の茶会と文化講演会を開催予定で、現在参加者を募集中。この茶会は高等研の定例行事と位置づけ今回で5回目を迎える。茶会は茶道裏千家の寄贈による茶室「雅松庵」(本間宗寿 茶道裏千家 正教授指導)で行い、初心者を対

象にした「お点前体験コーナー」も設ける。また文化講演会では、「モンゴル時代の世界~日本文化の基層形成をもとめて~」と題して、杉山正明 京都大学文学部教授の講演を行う予定。

## 研究員の動き

### 新庄輝也フェローが2月1日から上級研究員に就任



国内外の優れた研究者に研究の場を提供し、本研究所の研究活動の一層の活性化を図ることを目的に、2005年1月上級研究員(IIAS Senior Researcher)制度を設けた。上級研究員は、企画委員、フェロー及び所長が特に認め

た者で、公的機関が実施する研究事業又は外部資金による研究事業であって、その事業が本研究所の「特別研究」として実施される場合、その研究の代表者を務める者としている。

今回、新庄輝也氏(2002年度からIIASフェロー 京都大学名誉教授)が初めて就任した。

## 叙勲

### 中川久定副所長がフランスからレジオン・ドヌール勲章受賞

中川久定副所長(フランス文学・比較文学)に、昨年6月4日フランス政府より国家勲章レジオン・ドヌール勲章シュバリエ章(ナポレオンによって1802年に創設)が叙され、ベルナルド・ド・モンフェラン駐日フランス大使より、京都日仏会館にて授与された。

このたびの叙勲は、同副所長のフランス語フランス文学における学問的寄与として日仏の学術文化交流の貢献が高く評価されたもの。同12月17日の授与式では、金森順次郎所長からのお祝いのメッセージが贈られた。



## 新刊書案内(2005年3月31日発行)

### 高等研報告書・出版関連 (高等研学術出版としてインターネット出版を実施中、高等研ホームページ参照)

#### ●高等研報告書

1. No.0207 「臨床哲学の可能性」	野家 啓一他著	3810円
2. 情報生物学講義シリーズ	松原 謙一監修	
No.0304 「プロテオミクスとバイオインフォマティクス」	谷口 寿章著	700円
No.0319 情報生物学講義「医学データベース~疾患遺伝子変異情報~」	蓑島 伸生著	700円
3. No.0403 「物質科学とシステムデザイン」	金森順次郎著	(非販売)

#### ●高等研〈親子〉サイエンス・スクール2004

1. 「君の不思議を探そう~小さな磁石、大きな磁石~」	—	(非販売)
-----------------------------	---	-------

# 研究活動及び公開事業等の開催状況 (変更する場合があります)

## ●研究活動

◎2005年1月～6月

開催日	研究内容	プロジェクト名	研究代表者名
1月 8日(土)	研究会	奈良女子大学共同研究会「歴史的概念としての日本の形成と変容」	松尾良樹
1月 8日(土)	研究会	特別研究「物質科学とシステムデザイン」	金森順次郎
1月 9日(日)	研究会	「国際比較からみた日本社会における自己決定と合意形成」	田中成明
1月15日(土)	研究会	「芸術と社会～芸術表現における伝統と革新の問題」華道研究会	佐々木正子
1月21日(金)	研究会	「共同研究の法モデル」(中国における産学連携と知的財産)	北川善太郎
1月22日(土)	研究会	「スキルの科学に関する学際的検討」	岩田一明
1月25日(火)、26日(水)	学術フォーラム	「水フォーラム」	井口洋夫
1月28日(金)、29日(土)	学術フォーラム	「ヒト胚に関する倫理・社会規範研究会」	位田隆一
2月 4日(金)、5日(土)	研究会	「思考の脳内メカニズムに関する総合的検討」	波多野諠余夫
2月 5日(土)	研究会	「分化全能性—普遍性と特異性」	原田 宏
2月10日(木)	研究会	特別研究「物質科学とシステムデザイン」	金森順次郎
2月19日(土)	研究会	「21世紀の宇宙開発・宇宙環境利用の問題—人文社会科学からのアプローチ」	木下富雄
2月19日(土)	研究会	「共同研究の法モデル」産学連携セミナー	北川善太郎
2月21日(月)、22日(火)	コロンキウム	「スキルの科学に関する学際的検討」設計技術分野のスキルの本質とその価値	岩田一明
3月 5日(土)	研究会	「分化全能性—普遍性と特異性」	原田 宏
3月 5日(土)	研究会	「開発途上国と日本人長期政策アドバイザー」	橋本日出男
3月 8日(火)、12日(土)	研究会	「コンピューショナル・マテリアルズ・デザイン・ワークショップ」	赤井久純
3月12日(土)、13日(日)	研究会	「量子情報の数理」	大矢雅則
3月17日(木)～22日(火)	研究会	「センサー論」大韓民国現地調査	鷲田清一
3月18日(金)、19日(土)	研究会	「学習の生物学」	星 元紀
3月22日(火)	学術フォーラム	国際ワークショップ「生命倫理の新しい法政策」	位田隆一
3月26日(土)	研究会	「スキルの科学に関する学際的検討」	岩田一明
3月26日(土)	シンポジウム	国際高等研究所・フンボルト財団共催シンポジウム「日本にとってドイツ法学とは?」	北川善太郎
4月 1日(金)	研究会	特別研究「電子系の新しい機能」	新庄輝也
4月 5日(火)、6日(水)	作業グループ	「高度計測技術の発展と埋没」	本河光博
4月15日(金)	研究会	特別研究「電子系の新しい機能」	新庄輝也
4月16日(土)	研究会	「スキルの科学」	岩田一明
4月23日(土)	作業グループ	「ミトコンドリア再考」	岡田益吉・小林俊一
4月23日(土)	作業グループ	「進化と文法」	藤村 靖・中島 泉
5月21日(土)	研究会	「スキルの科学」	岩田一明
5月24日(火)、25日(水)	作業グループ	「女性科学者と科学の未来」	伊藤厚子
5月27日(金)、28日(土)	作業グループ	「先端考古科学」	足立裕彦
5月27日(金)、28日(土)	研究会	「思考の脳内メカニズムに関する総合的検討」	波多野諠余夫
6月17日(金)、18日(土)	研究会	「電子系の新しい機能」	新庄輝也
6月25日(土)	研究会	「開発途上国と日本人長期政策アドバイザー」	橋本日出男

## ●公開講演会等

◎2005年1月～6月

開催日	研究内容	プロジェクト名	講師名
5月 7日(土)	公開講演会	第5回高等研「雅松庵」茶会と文化講演会「モンゴル時代の世界」	本間宗寿、杉山正明

## ●高等研フェロー等の研究活動

◎2005年1月～6月

開催日	研究内容	プロジェクト名	研究代表者名
1月28日(金)、29日(土)	フェロー研究会	「進化と文法」	藤村 靖・中島 泉
2月18日(金)	フェロー研究会	「X線考古学」	足立裕彦
2月24日(木)	フェロー研究会	動物にmindが発生するための数理的条件	沢田康次

編集・発行者

財団法人 国際高等研究所

〒619-0225 京都府相楽郡木津町木津川台9丁目3番地  
 TEL: 0774-73-4001 FAX: 0774-73-4005  
 E-mail: editor@iias.or.jp  
 http://www.iias.or.jp